

祝*ぽぽろ 10周年 記念誌を発行しました

当センターは、平成17年に設立され、翌18年10月から、「地域活動支援センター事業Ⅰ型」「相談支援事業」「北海道精神障害者地域生活支援事業」の委託を受けて活動しています。

開設から10年を迎え、これまでのあゆみをまとめた記念誌を制作することとなりました。制作にあたり、ぽぽろの職員と利用者3名が編集委員となり、どんな内容にするか、どんな表紙にするか、話し合いを重ねてきました。タイトルは、たくさんのアイデアの中から、悩みに悩み「曇りのち晴れ〜きっといいことあるさ〜」にしました。これは、当事者が病気を経験してこれまでを振り返り、「降っている雨がいつかは晴れていくように、今の苦しさはずっと続かない。いつか、きっと良いことがあるよ。」というメッセージが込められています。

内容は、主に、利用者からのメッセージ、相談支援事例集、各事業の10年間の実績を掲載しています。ぜひ、お手にとってご一読いただければ幸いです。

見どころ1

「わたしとぽぽろの10年物語」

ぽぽろ利用者14名の、10年間をふり返っての思い出や感想を綴っていただきました。ぽぽろを利用してからの変化や出会った仲間への感謝の言葉、さらに、得意の俳句でお祝いしてくれた方もいます。

見どころ2

座談会の開催

「あなたにとってサテライトとは？」というテーマで座談会を開催し、その模様を誌面に掲載しています。

サテライトを知ったきっかけ、サテライトは自分にとってどんな場所なのか、また、現在の課題と今後の方向性を語り合いました。



見どころ3

相談支援事例集

これまで相談支援をしてきた中で、特に印象に残っている事例を掲載し、ぽぽろがどのような相談に対応しているのか、その一部を紹介しています。

第4回精神障がい者地域生活移行支援協議会を開催しました

28年度、最後の地域移行支援協議会を2月24日に実施しました。

長期に入院をしている精神障がい者の地域移行はなかなか進まないのが現状ですが、今年度はその要因や推進方法を検討してきました。

4回目はそのまとめとして、「送り出す側」「迎える地域側」の課題を分かち合い、保健医療福祉分野の体制づくりについて話し合いました。主な課題を列挙します。

送り出す側の課題

① 長期入院をしていると、家族構成が変化し、保護者が親から兄弟に代わってくる。療養している本人も「迷惑をかけたくない」と思い退院をあきらめる傾向がある。 また、生活感覚や季節感なども薄れてしまう。
② 入院者にとって入院先まで地域の情報は入ってこない。退院に繋がる支援方法が分からないことも多い
③ 支援者も日々の仕事が忙しく、退院への気持ちを表出できない人について動機づけをしたり、情報提供をする時間が少ない
④ 各施設、病院等では空きベットがある状況は経営面でも課題になる

受け入れる地域側の課題

① 住む場所の確保が難しい。グループホームなどの整備が少なく地域の偏りがある。多様な住居形態がない
② 居宅介護等の福祉サービス事業所が少ない。また、従事者にも精神障害に関する不安や拒否感がみられる
③ 日中活動の場や就労する場が少ない。特に若い人には仕事をするための準備体制が必要である
④ 地域が過疎化しているため、一人暮らしをするにも、店や交通機関等の問題がある

病気と共に生活するには「医居食職住自由」が大切だと言われます。全体討議では課題の背景や現状について、様々な意見や実態が出されました。中空知圏域は人口減少と高齢化が進んでいます。精神障がい者の地域移行を進めるためには、過疎化対策も含めた地域づくりを考えることが大切だと実感しました。また、支援者自身の認識や質の向上も大切な条件です。次年度も引き続き検討を進めてゆきたいと思います。



新年交流会＊鍋パーティ

1/19 「ピアサポートセンターてくてく」と合同で新年会を行いました。寄せ鍋・ミルフィーユ鍋・キムチ鍋などとてもおいしかったです。30名もの人が集まって大盛況でした！！
心もお腹も満腹で、今年も元気にスタートできそうです☆



鍋パーティをなめていました。
こんな大変だとは思いませんでした。
ぼぼろのスタッフにはとても感謝しています。林



2♥14 バレンタインデー



今年のバレンタインデーは、みんなで「ミルクチョコプリン」をつくりました。板チョコを刻み、溶かして、ミルクとゼラチンと混ぜて固めるという簡単な工程でしたが、程よく固まり、とてもおいしかったです。プリンを食べながら、おしゃべりをしてゆっくりとした時間を過ごすことができました^^

温泉に行こう！ゆ〜りん館

3/15、美唄市にある温泉「ピパの湯 ゆ〜りん館」に行きました。無料送迎バスに乗り、1時間程度で到着。少しゆっくりしてから、昼食は、それぞれ好きなメニューを食べました。その後は温泉へ！男性陣はみんなで入り、さっぱりとしていました。しかし女性陣は居残り・・・「女子会！」と言っておしゃべりで盛り上がっていたり、お土産をみたり、ゲームセンターではしゃいだり・・・温泉に入らなくとも、とても楽しい時間を過ごしました☆



初めての慰安旅行良かったです。メンバー同士のきずなが深まったと思います。今後もこういう行事があれば行きたいですが、お財布と相談して決めます。いつもは5～10分くらいの入浴だけど、ここでは5分くらい長く入浴しました。
柳沼

中空知の福祉事業所を紹介

自分たちが通っている事業所の他に、どのような福祉事業所があるのかを知るため、働くところや、日中の活動ができるところを紹介していきます。今回は、滝川市の「就労継続支援 B 型事業所」を紹介します。

B 型事業所とは、雇用契約を結ばずに、就労の機会を提供するとともに、体力づくりや対人関係の向上のために必要な訓練などを行うところです。



社会福祉法人滝川市社会福祉事業団 滝川新生園

滝川市江部乙町 725 番地 1

定員 20 名 現在 14 名通所。

あいがも肥育事業として、もみふり、エサやり作業など、花卉栽培事業として、3~6 月に種から花苗栽培し、販売するなどを行っています。そのほか、誕生会、季節の行事、1 泊旅行などの活動も行います。

ふれあいを大切に、きめ細やかなサービス提供を目指すとともに、心豊かな地域社会の発展に努めています。また、周りへの感謝を大切にしています。

社会福祉法人滝川市社会福祉事業団 滝川更生園

滝川市江部乙町 725 番地 1



定員 30 名 現在 29 名通所。

作業はクリーニング事業です。品物の仕分け、検品、アイロン、プレス機による仕上げ、エプロン、おしぼりたたみ作業などを行っています。その日によって作業担当が変わるので、利用者はいろいろな工程を学び、作業を行います。

そのほか、年 1 回の研修旅行、焼き肉大会、サマーキャンプ参加などの行事もあります。自主的に作業を行ってもらい、技能の習得と自立を目指します。



社会福祉法人滝川ほほえみ会 滝川ほほえみ工房

滝川市滝の川町西 5 丁目 4 番 28 号

定員 40 名 現在 40 名通所

クッキー、マドレーヌ、シフォンケーキなどの製造と販売（市役所・イベント出張など）喫茶プティ（市役所）の営業、椎茸作業、その他委託作業など様々な作業を行っています。作業はそれぞれの場所でその人に合った内容を行ってもらいます。

利用者が地域で当たり前の生活ができるよう支援し、地域に根差した工房を目指しています。

一般社団法人はるか 地域就労支援センターこころ

滝川市大町 6-1-22



定員 10 名 現在 10~12 名通所

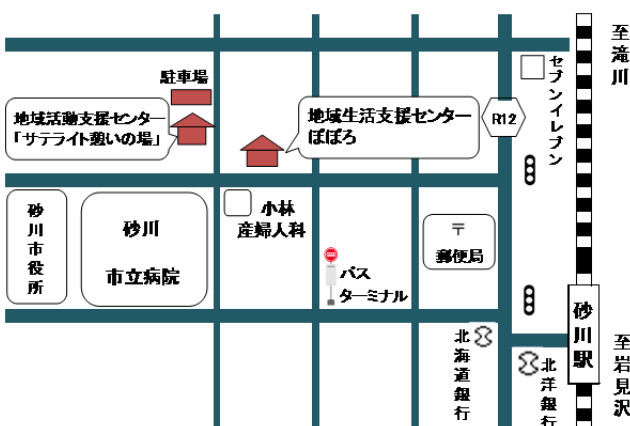
主に椎茸の栽培・収穫・運搬・販売などを行っています。作業以外にも、週 1 回ミニバレーをしたり、余暇活動もあります。

家庭的であたたかい雰囲気を大切に、主体性と充実感を第一に考え、“生きがい”を重視しています。

※29 年度 4 月より移転します

住所：滝川朝日町東 1 丁目 7 番 18 号

定員：20 名



○地域生活支援センターほぽろ

住所：砂川市西 3 条北 4 丁目 1-3

電話：0125-55-3101（8：45~17：45）

○地域活動支援センター「サテライト憩いの場」

住所：砂川市西 4 条北 4 丁目 1-20

電話：0125-54-1651（9：30~15：30）